

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和6年 3月 1日

事業所名 児童発達支援 マザーズ城東

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用定員を順守している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		コンプライアンス委員会を設置しており、人員配置を含め、法令遵守にのっとり運営している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		教室内は、視覚支援等によりバリアフリー化されている。	2階のテナントであるため、階段の上り下りが生じる。「保護者と一緒に上り下りをする」を児童と約束したり、見送りの際は降りる様子を見守ったりして安全に配慮している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日の清掃・消毒、定期的な換気を欠かさず行っている。 身体を動かす活動では、広いスペースを確保するため、放デイのプレイルームに移動して行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日、朝礼、終礼、勉強会を行っている。その中で日々問題点を挙げて、解決策を話し合っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者に対して事業所評価を実施し、全職員がその結果を確認することで、業務改善につなげている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで毎回公表している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は未実施だが前向きに検討したい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		朝の勉強会や全体会議の場での研修で職員の資質向上を図っている。外部講師を招いての研修も行った。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		児発管が適切な手順で作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		当事業所内で使用してはいるが、病院などで行ったアセスメントツールを用いた検査の結果を参考にさせていただいている。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和6年 3月 1日

事業所名 児童発達支援 マザーズ城東

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		計画作成時に児発管が一覧表を確認して項目を選択し、その項目が妥当かを教室用が確認している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画を全職員に共有した上で支援にあたっている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		教室内の職員で意見を出し合って立案している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		振り返りを複数の職員で行い、毎回改善を重ねている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団活動を基本としているが、必要に応じて個別活動についても支援計画に記載している。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼時に当日の療育内容、役割分担を全職員で共有している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼を行い、その日にあったことを共有して業務改善につなげている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		Bridge（連絡アプリ）への記入や、朝礼・終礼時の記録を徹底し、改善につなげている。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		最低限、6か月に一度は児発管がモニタリングを行い、その後全職員で話し合っている。		
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		教室長や児発管が参加している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		今後要請があれば連絡会などに参加する予定。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和6年 3月 1日

事業所名 児童発達支援 マザーズ城東

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障 がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等 の関係機関と連携した支援を行っている			該当なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障 がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体 制を整えている			該当なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼 稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、 支援内容等の情報共有と相互理解を図って いる	○		児発管が移行支援会議などに積極 的に参加し、得た情報を事業所に 持ち帰って全職員に共有してい る。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小 学部)との間で、支援内容等の情報共有と相 互理解を図っている	○		児発管が移行支援会議などに積極 的に参加し、得た情報を事業所に 持ち帰って全職員に共有してい る。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援 事業所、発達障害者支援センター等の専門 機関と連携し、助言や研修を受けている	○		主に児発管が研修に参加し、得た 知見を全職員に共有している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流 や、障がいのない子どもと活動する機会があ る		○		地域の園に今後は積極的に働きかけていきた い。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ど も・子育て会議等へ積極的に参加している	○		教室長や児発管が参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理 解を持っている	○		Bridgeにて来所時の様子を伝え、 保護者と共有している。また、送 迎時に直接丁寧に話をしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対して家族支援プログラム(ペアレン ト・トレーニング等)の支援を行っている	○		6月と11月に茶話会を実施し、当事 業所職員が子どもに接するときに 意識していることについて、説明 した。	
	保護者への 説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説 明を行っている	○		契約時に児発管が丁寧に説明して いる。
33		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援 の提供すべき支援」のねらい及び支援内容 と、これに基づき作成された「児童発達支援 計画」を示しながら支援内容の説明を行い、 保護者から児童発達支援計画の同意を得て いる	○		児発管がガイドラインを提示して 保護者に説明している。	

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和6年3月1日

事業所名 児童発達支援 マザーズ城東

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的な面談を行うなど、悩みを共有して保護者の気持ちに寄り添うよう心掛けている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		6月と11月に茶話会を実施し、保護者同士での交流の場を設定した。10月に実施した運動会では、応援席で保護者同士の活発な会話が見られた。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		ご意見箱を入口に設置している。日々の送迎時の保護者との会話を充実させることで、迅速かつ適切に対応できるよう努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		マザーズ新聞を11月に発効した。予定表は毎月配布している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報を含む資料は全て鍵付きのキャビネットに保管。職員退勤時に必ず施錠している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		Bridgeの活用や対面でのお話を通じて相互理解を図っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域の人形劇サークルの方による上映を放デイで行った際、児発の児童にも鑑賞への参加を募ったところ、一名のみ参加があった。今後は同様の機会を増やしたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		契約時に保護者に配布している。職員は朝の勉強会等で確認している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		ガイドラインに沿って定期的に各災害に対する訓練を行っている。	避難訓練を行った際は、写真をBridgeで送ったり、当事業所の避難場所を共有したりして、避難訓練について、日頃から保護者との情報共有を充実させる。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者から状況を確認して対応している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			食事提供なし	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット発生時には、記録を作成し、法令遵守責任者に報告している。事業所内でもその日のうちに共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		メンタルヘルス研修や虐待防止研修を実施している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している			該当なし	